

瀧音能之先生のご退職にあたって

駒沢史学会会長

大 城 道 則

瀧音能之先生は、令和六年（二〇二四）三月、ご定年を迎えられ、駒澤大学をご退職されることとなりました。本学に着任されたのは、平成九年（一九九七）四月のことで、以来、二七年にわたり教鞭をとられ、教育・研究とともに学科運営、そして大学運営にも献身的に携わってこられました。心から感謝申し上げます。心から感謝申し上げます。

瀧音先生は、昭和二十八年（一九五三）北海道のお生まれで、函館ラ・サール高等学校を卒業後、昭和四十八年（一九七三）四月に早稲田大学第一文学部日本史学専攻にご入学されました。昭和五十三年（一九七八）三月に同専攻ご卒業、昭和五十三年（一九七八）四月に明治大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程に進まれております。昭和五十五年（一九八〇）三月には同専攻修了、同年四月に同大学院文学研究科史学専攻博士後期課程に進学されました。そして、昭和六十二年三月に同専攻博士後期課程を満期退学されました。その後は淑徳高等学校、淑徳短期大学、淑徳大学人文学部、尚美学園短期大学、日本大学通信教育学部、早稲田大学第一文学部、早稲田大学第二文学部、早稲田大学人間科学部、早稲田大学法学部、多摩美術大学などで非常勤講師を歴任されております。

平成九年（一九九七）四月、文学部歴史学科に助教としてお迎えすることになりました。その後平成十四年（二〇〇二）には教授に昇任され、今日を迎えていらっしやいます。

瀧音先生のご専門は日本古代史で、『出雲国風土記』をはじめとした各国風土記や、『古事記』『日本書紀』などの神話について精力的に研究を進められてきました。とりわけ古代出雲に関する研究を深められ、平成六年（一九九四）一月には博士論文「古代出雲地域史の研究」をまとめられ、博士（文学）の学位を早稲田大学から授与されました。その成果は、同年四月に『出雲国風土記と古代日本―出雲地域史の研究―』として雄山閣出版から公刊されております。その後、『古代出雲の社会と信仰』『古代出雲の社会と交流』『出雲古代史論攷』の研究論文集をはじめ、多くの編著書や論文等を執筆され、古代出雲の研究に大きな足跡を残されてきました。また、学術研究で得られた成果を研究者ではない一般の方々にも広く紹介することにも努められ、数多くの入門書も手掛けられておられます。

そして本学に就任後の平成十三年（二〇〇一）には、在外研究で韓国高麗大学校に渡られ、その後は国外にも研究活動の幅を広げられ、韓国や中国の学会や学術誌等においても研究成果を発表されております。こうしたご研究のかわら、学外では、出雲古代史研究会の役員や島根県古代文化センターの客員研究員を長年にわたりお務めになられました。

また、平成十六年度から十八年度までは大学院歴史学専攻の主任、平成十九年度・二十年度は歴史学科の主任、平成二十五年度・二十六年度は入学センター所長としてお務めいただき、教育や大学運営の面で大きな役割を果たされました。

そして、令和六年三月、瀧音能之先生をお送りすることになりました。普段は温厚でありながら、研究には厳しく、研究書・一般書を問わず持論を表に出し続ける姿勢には常に感銘を受けておりました。駒澤大学に大いなる足跡を残された瀧音先生が本年度をもってご退職されることはまことに残念ではありますが、今後ご健勝でご研究を続けられるとともに、駒澤大学、そして歴史学科を見守っていただきたく存じます。